ともに励まん

２０１９，７，１９（金）

北海道旭川永嶺（えいりょう）高等学校３年次だより　第１５号　（通巻 110 号）

がんばれ　３年生！

夏季講習（休業前～夏季休業中）が始まりました。模擬試験も続くようになってきました。小論文模試の１回目のリピート添削の書き直し、自己推薦や志望理由書作成の推薦対策も始まり、なかなかに大変な人も多いだろうと思います。それらに関わる先生方もいろんな事が重なってけっこう大変です。ですから、皆さんの側でも、奨学金の書類や提出課題、模試の申込みや、申込み者一覧の確認、模試や講習の欠席連絡など、無用な手間をかけさせないような「動き」をしていただきたいものです。

小論文模試は、成績表も返ってきました。５教科の模試と違って、志望大学の入試形態ごとの小論文実施状況や過去の出題概要が紹介されていたり、あなたが読んだらいいという推薦図書の紹介が個別に記載されていたりと、親切な成績表です。活用して下さい。あわせて、教科の模試の解説書も、模試（本番）で得点するためのアドバイスが要領よくまとめられているものです。活用しない手はありません。答の正誤のみならず、解答法や弱点克服の参考にする、同じような出題に出会ったら、二度と間違えない、今度こそ得点してやる！　模試とは、そのように活用するものです。

講習は予習が命！　模試は復習が命です！　がんばれ３年生！

新聞読んでいるか？

新聞、読んでいるだろうか？　参議院選挙を控えた最近は、とくに私たちの暮らしや政治のあり方について考えさせられる記事が多いように思います。

福祉の問題、年金問題、増税の問題、外交の問題、その他たくさんの政治課題について多方面から論じられています。実際の生活者の意見も紹介されています。そうした「考え方」や「実情」といったものは、新聞で知るのがいいと思います。なるべくいろんな立場の人に配慮して、公平に公正に記事を書こうとしているからです。新聞は、情報を受け取るとき立ち止まって考えながら読むことができる、何度でも繰り返し読み返すことができる、という利点があります。

ぜひ新聞を、現代文や小論文、志望理由書や自己推薦文などの読解、表現の勉強に役立たせましょう。読む力、書く力、考える力は、入試に限らず、将来にわたって必要な力です。

【最近気になった新聞の表現～どこかおかしくないか？】

次の二つの文章は、いずれも北海道新聞、今月9日（火）の記事にあった表現です。どこかに違和感を覚えないでしょうか？

⑴（1970年代に旭川の買物公園が開設されたことを受けて）その後、歩行者天国は道内各地に広がり、地域活性化の一役を担った。
⑵（最近問題が表面化したかんぽ生命の販売手法に関して）かんぽ生命の保険商品を委託販売する郵便局の局長は・・・。

⑴では「一役を担った」がおかしいですね。「地域活性化の一翼を担った」が正しい表現です。「いちやく」「いちよく」似た発音から混同したのでしょう。もしくは「地域活性化に一役買った」と混同したか。ありがちな言い間違い、書き間違いです。

⑵はどうか。これは一瞬気づきにくいと思いますが、「かんぽ生命の保険商品」の販売を「委託」するのはかんぽ生命という会社の方で、日本郵便という会社の出先である郵便局はそれを「委託される」のです。ここは「かんぽ生命の保険商品を受託販売する郵便局の局長は」としなければなりません。

新聞は文章表現のプロが書いており、校閲というチェック専門の部署も経て商品化されるわけですが、それでもボクのような一般読者から間違いを指摘されるようなこともある。達意の文章を自在に書けるようになるには、相当の訓練（読む・書く・考える、の積み重ね）が必要ということにもなるわけです。がんばれ！ 3年生。がんばれ！ 永嶺生。

なお、前にも書きましたが、選挙権のある3年生諸君、投票日は21日です！

さて、オモテ面の記事を受けて、今回は「チャレンジ四字熟語」を休んで、「どっちがどっち？」というコーナーを作ってみました。全問正解、できるかな？

代替（ａだいたい　ｂだいがえ）　　相殺（ａそうさつ　ｂそうさい）
凡例（ａぼんれい　ｂはんれい）　　汎用（ａはんよう　ｂぼんよう）
帆船（ａはんせん　ｂほせん）　　貼付（ａちょうふ　ｂてんぷ）
「その通～り」が決めぜりふの役者は（ａ財津和夫　ｂ財津一郎）

書いてみる４　耳　～聞き鉄　揺れ鉄

４回目は「耳」の話。

鉄道ファンには「乗り鉄」やら「撮り鉄」やらいろんな楽しみ方のファンがいるらしいですが、「聞き鉄」「揺れ鉄」という耳慣れない「鉄」について考察してみたい。

ボクは５軒長屋で生まれ、高校卒業までそこで暮らしていたのですが、それは線路の土手のすぐ下に建っていました。いまはもう廃線となった旧国鉄線と、炭鉱につながっていた旧私鉄線とが併走している線路の土手の下でした。華奢な作りの棟割り長屋でしたから、汽車が通るたびに家が揺れるのです。そして、家の中に居ながらにして、何両の貨車が通過したか、数えられました（揺れも耳で感じるんですね）。まだ石炭が港に積み出されていた当時、石炭貨車は最長40両も連結され、先頭に「二重連」、または最後尾にもう１輌ＳＬ（蒸気機関車）を連結したりして、それはそれは壮観なものでした。

そのせいか、いまでもガタンゴトン、という列車が刻むレールの切れ目を通過する音が懐かしく思えます。本校の教室にも石北線を通る列車の音が聞こえ、郷愁を誘われます。

列車のレール音の他にも、子ども時代の「記憶の音」というものがあります。それは「カーン、カーン」というか、「スコーン、スコーン」というか、機械が杭（くい）を打ち込む大音量です。鑿井（さくせい）機、ボーリングマシーンというのでしょうか。いまはグオーンという感じでめり込ませていく感じですが、むかしはかなり上空から鉄球を落下させて杭などを打ち込んでいく工法（パーカッション工法っていうらしい）でした。従って、カーンカーン、スコーンスコーンという甲高い音が絶え間なく響いていたのです。当時、川や港の護岸工事、道路の舗装工事が至る所で行われ、木造の橋から鉄筋コンクリート製の橋へと架け替えられ、また、石油やセメントのサイロの建設も盛んに行われていましたから、何年も何年もこの音が町中に響いていたように思います。さらには、石炭の貨車から港に石炭を降ろす際、冬場の凍る時期には、作業員が貨車の凍結をツルハシでガンガンたたく音も響き渡りました。

ふる里の記憶の音は、汽車がレールを刻む音、ボーリングマシーンの音、工場の始業・終業のサイレンの音、こんな音たちの中で大きくなったように思います。高度成長時代、日本中で鉄の音が響き、鉄の振動に揺れたのでしょう。まさに「聞き鉄」「揺れ鉄」。いま、ふる里を訪れると、ずいぶん静かな町になったなあ、と思わずにいられません。

◆8月中の校舎使用制限のお知らせ（特定の部活動を除く）

８／１（木）午後～・２（金）・３（土）・４（日）
教員採用試験会場のため生徒校舎内立ち入り禁止（教員不在）　**＊私物持ち帰り厳守**
８／１３（火）・１４（水）・１５（木）
学校閉庁日につき、生徒校舎内に入れません（教員不在につき、電話も出られません）

☆☆☆　行事と時間割　☆☆☆

文月 ７月		行　事　等 ①②は校時を、(1) (2) は回数をあらわします		★時間割を確認しよう ①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
２０	土	＊休日の講習登校は８：３０　①～④講習								
２１	日	＊休日も窓閉め忘れずに！　①～④講習								
２２	月	⑦⑧講習	６時間							
２３	火	⑧講習	７時間							
２４	水	⑦⑧講習	６時間							
２５	木	⑦ LHR　⑧講習	７時間							
２６	金	大掃除・休業前全校集会　⑦⑧講習	６時間							

☆夏休み明け全校集会（登校初日）は8月19日（月）！

（文責　伊丸岡）